

## 藩政時代の糠塚村絵図②

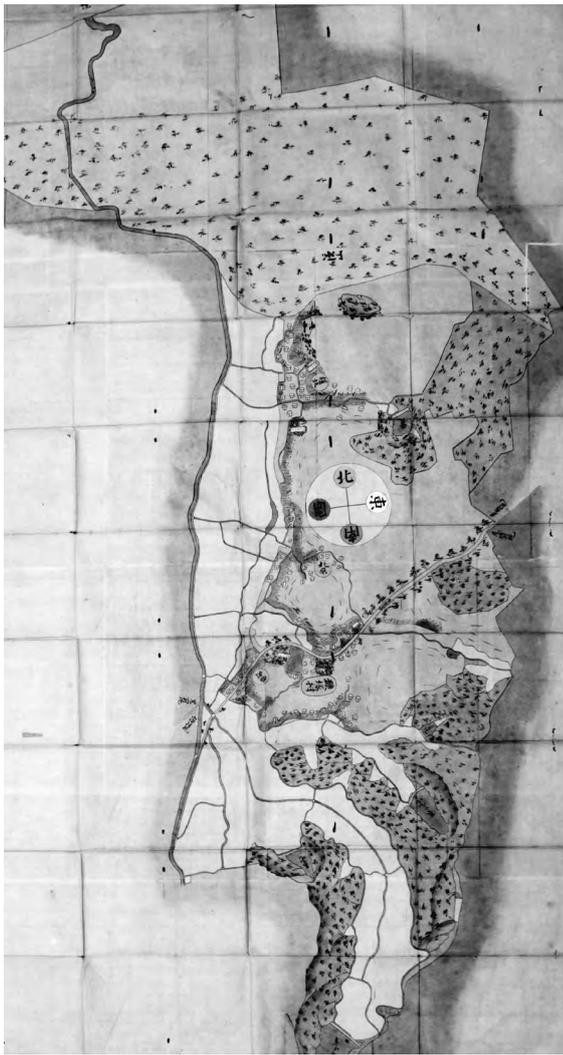
岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

糠塚村は前号で村絵図を紹介したように、南北に長い。

村絵図の中心部分が、現在の糠塚区<sup>なぐさ</sup>の中心に当たる。山田村から矢矧川<sup>やまがき</sup>を沿う道を通り、糠塚村に入る。祇園宮(現須賀神社)下を通り、芦屋に向かっている。この道は「唐津街道」といわれ、唐津から

博多を経由して、小倉へ通じる街道であった。この道を、福岡藩と唐津藩が参勤交代のときに利用していた。

後年、宗像の赤間から鞍手郡の植木<sup>うきは</sup>經由で小屋瀬(現八幡西区)に抜ける道が開かれ、以降の参勤交代はこの道を利用するようになった。



▲糠塚村絵図(中心部)

た。小屋瀬は長崎街道(長崎から冷水峠を越え、飯塚、小屋瀬を経由し小倉に至る)の宿場町だった。

長崎街道は「東往還」、赤間から小屋瀬に抜ける街道は「中往還」、赤間から芦屋、若松經由で小倉に至る街道は「西往還」と呼ばれた。村絵図には、「西往還」のことが「西住還筋」と記されている。筆者が子どものころ、この道のことを「おうかん」と呼んでいたが、なぜかなと思っていた。

伊能忠敬らが全国を測量して、今の日本地図のもとになる「日本輿地全図」(日本沿海実測地図)を作成した。それは文政4(1821)年だった。忠敬らは、福岡を6回にわたり測量した。そのうち、岡垣を2回測量した。

1回目は文化9

(1812)年7月25日、芦屋を出発して、岡垣の糠塚村、黒山村、吉木村、手野村、波津村を測量し、そこから舟で宗像の鐘崎に渡っている。

2回目は、博多から唐津街道に沿って測量してきた、赤間から岡垣入りしたのが、文化10(1813)年10月5日だった。「西住還」に沿って、上畑村、海老津村、山田村、糠塚村を測量した。

忠敬らが全国を測量したことは「測量日記」として保存され、「伊能忠敬測量日記」(九州ふるさと文獻刊行会)として、九州の部を読むことができる。

糠塚のことは「糠塚村、仮立場」と書かれている。「立場」とは、街道で休憩する所だといわれ、そこで、小休止して観測もしたのであろう。そこは現国道95号沿いにあるヒーリングスペースAVVA付近だと思う。

その後、忠敬らは芦屋に向かった。松原のことを「測量日記」に「岡ノ松原」と書いている。これが三里松原と呼ばれるようになったのは、明治以降であろう。